



創立昭和46年
(Founded 1971)

日本学術会議協力
学術研究団体

2014年2月(105号) No. 105, February 2014

Web版

CAJ News

日本コミュニケーション学会ニュースレター
ホームページ: <http://www.caj1971.com>

日本コミュニケーション学会 事務局
〒480-1197 愛知県長久手市片平9
愛知淑徳大学メディアプロデュース学部 五島研究室内
電話0561-62-4111 & FAX0561-63-9308 e-mail: cajoffice@caj1971.com

支部会訪問で見えてきたもの

会長 宮原 哲 (西南学院大学)

猛烈に暑い夏だったかと思えば、この先もしばらく続きそうな厳しい冬を迎えています。会員の皆様、お元気でしょうか。昨年9月末から12月中旬にかけてお目にかかった各支部の皆さんの笑顔や話し声が温かく思い出されるのは正に会長冥利に尽きます。

2009年に急遽会長を仰せつかり、「会長としてできること」の一つとして、可能な限り支部の集まりへの参加を思い立ちました。今年度は各支部に、支部同士の交流ができるよう日程を配慮していただくようお願いし、その結果順番に九州、北海道、東北、中四国、中部の各支部をお訪ねできました。

最初は「お邪魔」と感じられた方も多いでしょう。「何しに来るんだろう」ならまだしも、受付で「会員の方ですか」と尋ねられたこともありました。しかし、会を重ねるごとに、お話をする機会をくださるのが当たり前のこととして受け入れられるようになり、本当に良かったと思っています。

出欠をお尋ねくださる際も、「懇親会には出席しますか」から「しますよね」へと変化しました。プログラムより先に地酒のリストが送られてきたときは、さすがに「こちらの方が主目的」と思われているのでは、と自嘲しましたが。でも、研究発表やシンポジウムはもちろんのこと、懇親の場で交わした率直な意見や本部へのご要望などに耳を傾けることができたことは事実です。

今年度のテーマは九州支部の「異文化交流とコミュニケーション」、北海道支部が「コミュニケーションと教育を考える」と設定し、東北支部では「コミュニケーション教育の実践と課題」のテーマの下、研究発表に加え、教育研究会と学術局がラウンドテーブルを開き、学部学生にも登壇してもらいました。中四国支部ではこれまで16回の大会中8回を医療コミュニケーション教育研究セミナーとの共催で行われてきた形式を、今年も踏襲されました。中部支部では会員が最近完成させた博士論文2本が発表され、基調講演「市民教育とコミュニケーションの形式—ヨーロッパ社会のシティズンシップ教育の動向から」が行われました。今年度の年次大会で教育をテーマとして取り上げたこともあり、各支部が何らかの形で教育とコミュニケーションとの関連を独自の視線で探ろうとする努力が目立っていたといえます。また、支部の境界を越えた、特に北海道と東北では互いの支部会に出席し、研究発表をして和やかな交流を楽しまれる姿は印象的でした。

このように、日本コミュニケーション学会をシステムと考えたとき、それぞれの支部が単独では存在理由も機能もないかもしれないが、全国の学会の「部品」(ことばは悪いですが)として独自の働きをし、部品同士がユニークな関係を築き、全体のシステムの特徴を作り出していると言えます。だとすれば、全国組織あつての支部でもありますが、支部あつてこそその全国とも言えるのです。今後もそれぞれの支部がその特長を生かし、それぞれの地域との連携、協働関係を築き、強化し、日本全体のコミュニケーション教育や研究の最先端を行く共同体としての存在を示していただきたいと願っています。

今年の年次大会は初の沖縄で、たいへん適切な「コミュニケーションと平和」のテーマで開催予定です。詳細は次のニュースレターでお知らせしますが、一足先に梅雨が明ける沖縄の青い空の下、多くの会員の方々にお集まりいただけるものと信じています。

最後に、授業や大学運営、研究などたいへんお忙しいにもかかわらず、本学会の運営に寄与して下さっている理事、各支部長の皆様にこの場を借りて心からお礼申し上げます。ありがとうございます!

第44回年次大会会場校案内

この度、第44回年次大会が琉球大学（沖縄県中頭郡西原町）で開催されることが正式に決まりました。会場へのアクセスなどは、大会プログラムやホームページ上で追ってお知らせしますが、CAJの年次大会を初めて沖縄で開催できることを大変嬉しく思っております。

今回の年次大会のテーマは「コミュニケーションと平和」です。学術（基調）講演の他にも大会テーマに関連した特別企画を実施し、コミュニケーションと平和の問題を多角的な視点から探っていきたいと考えております。CAJ理事および大会実行委員会一同、大会の盛り上がりには全力を注いでいく所存ではありますが、何とんでも大会の主役は参加していただける会員の方です。昨年度の大会より、個人研究発表と企画セッションの両方の申し込みを受け付けておりますので、奮ってご応募いただけるようお願いいたします。また、発表の有無にかかわらず、出来るだけ多くの方にご来場いただき、年次大会を研究交流の場として活用していただければ幸いです。

会場：琉球大学（〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地）

大会テーマ：コミュニケーションと教育

参加申込方法と宿泊について：本大会でも前回同様、「トップツアー」を通じたWeb上での学会参加申込となります。準備が整い次第、学会特別プランとしていくつかのホテルも一緒にご紹介いたします。申込は、大会案内とともに送られる申込方法に従ってお手続きのほどお願いいたします。

（学術局・師岡淳也）

学術局報告

学術局セッション報告

東北支部研究大会

2013年11月30日、山形市にある「大学コンソーシアムやまがた ゆうキャンパス・ステーション」で開催された第14回東北支部研究大会に、学術局として昨年に引き続き吉武が参加した。

前半は、五十嵐紀子氏・関久美子氏、川内規会氏、小島正美氏・宮曾根美香氏、田島弘司氏による計4本の研究発表がなされた。テーマも介護実習とコミュニケーション教育、医療通訳、SNSといじめ、非言語と異文化コミュニケーション教育と多義にわたり、活発な議論が交わされた。

後半の「コミュニケーション教育研究会・学術局によるラウンドテーブル」は、昨年度の東北支部でのパネルおよび全国大会でのコミュニケーション教育研究会による企画の続編にあたる。経緯説明のあと、支部会員でコミュニケーション教育に熱心な石橋嘉一氏、若者や子どもたちの地域での学びを創出しているNPOハーバランス代表の舟田篤史氏、その企画に参加経験のある山形大学2年生の三浦克之さんによる発表がなされた。教育実践では学習内容の複雑性が縮減され、扱いやすい教材に加工される。一方、現実のコミュニケーションはそもそも複雑であり、想定外に満ちている。ここにコミュニケーションを教育するうえでのジレンマがある。現在大学は「どう学生に対し手厚い教育を提供するか」を至上命令としているかのようにみえる。しかし、そうした過度の「サービス」が学生から「想定外」を奪っているのではないのか。むしろ、コミュニケーション教育は想定外と出会うドキドキ感やわくわく感を喚起し、学びへの意欲に点火するものではないのか。切るべき舵の方向とたどりつくべき島がかすかに見えたラウンドテーブルとなった。

最後に用意されていたのは、宮原会長からの「デザート」だった。持ち前の軽やかでユーモアに満ちた話に舌鼓を打ち、コミュニケーション研究者として肝に銘じるべき指摘に会場は思わずうなずきながら、大会は幕を閉じた。

全国大会や所属の支部大会にもそれぞれのよさはあるが、たまにはふらっと「みちのくの旅」はどうだろう。きっと素敵な他者に出会う旅になるはずだ。

第44回年次大会発表論文・企画セッション募集

日本コミュニケーション学会は、2014年6月21日(土)、22日(日)に、琉球大学（沖縄県）で第44回年次大会を開催いたします。本年度の大会テーマは「コミュニケーションと平和 (Communication and Peace)」です。このテーマのもと、多数の企画を準備すると同時に、会員の皆様からの研究発表とパネルディスカッションなどの企画を募集いたします。とくに今大会では、研究発表だけでなく、会員の相互の研究関心と教育実践の質的な向上を共有する「企画セッション」を応募します。形式は、パネルディスカッション、統一テーマの論文発表、ワークショップなど、自由な発想のもと、90分間のセッションを使って、学会と国際社会に有効な企画をぜひお寄せください。

研究発表と企画セッションの応募にあたり、プログラムに掲載される要旨と大会プロシーディングス出版用の要旨の2種類をご提出ください。

①プログラム掲載用要旨

和文800字以内、英文300語以内。

②プロシーディングス掲載用要旨

和文要旨は3000字以内（脚注を含む）、英文は1000語以内（脚注を含む）。

いずれも、A4判2枚にすべてが収めること。

なお今大会の募集から、パネルなどの企画セッションに応募する場合、パネル全体としてそのセッションの概要を800字（プログラム用）と3000字（プロシーディングス用）の要旨に収め、発表者の要旨を別々に含める必要はなくなりました。

詳しくは、学会ホームページの「**プロシーディングス執筆規定**」を参照のこと。

応募の際は、メールの題目/subjectに「CAJ submission：氏名」と必ず明記し、担当理事の清宮宛(kiyomiya@seinan-gu.ac.jp)まで電子メールでお送りください。応募の際、この手順に従っていただけない場合、自動的にスパムメールとして処理され、メールが行方不明となることもありますのでご注意ください。

応募締め切りは2014年2月20日(木)となりますので、期日には十分にご留意ください。大会の研究発表では、第一筆者（及び発表をおこなう当事者）がCAJの会員であることが規定によって定められています。申込みまでにCAJの会員登録をお済ませいただき、会員番号を明記ください。なお、会員番号は、本ニュースレターのあて名部分に印字されています。また年会費の未納のため、近年、会員資格の失効が発生していますので、あわせてご注意ください。

発表申し込みに関しましては、学会ホームページ(<http://www.caj1971.com/>)でもご覧いただけます。活気に溢れた大会になるよう、積極的に発表申し込みをいただきたく存じます。

Call for Papers for the 44th CAJ Annual Convention

The Communication Association of Japan will hold its 44th Annual Convention on Saturday, June 21st and Sunday, June 22nd 2014, at the University of Ryukyus in Okinawa. The theme of the Convention will be "Communication and Peace." CAJ will invite proposals for individual or panel presentations for competitive research papers dealing with any subjects of communication studies. Additionally, we would like to particularly invite a unique and quality session that contributes to the CAJ members and activates our membership activities. The format of this theme session may vary depending on the session's objectives, such as a thematically organized paper session, a panel symposium, or a workshop. We appreciate your proposal that facilitates research activities and teaching practices as well as encourages information sharing beneficial for the CAJ members.

Those wishing to propose a paper presentation, a panel discussion, and a theme session should send an e-mail with an MS Word file of the abstract as an attachment to Toru Kiyomiya, Deputy Director of Academic Affairs, at kiyomiya@seinan-gu.ac.jp by Thursday, February 20th, 2014.

We will publish the conference proceedings with abstracts. Hence two forms of abstracts should be submitted.

- (1) For the convention program:
300 words or less in English or 800 characters or less in Japanese.
- (2) For the proceedings:
Maximum of 1000 words in English (*including* foot/endnotes) or 3000 characters in Japanese (*including* foot/endnotes). The total volume of abstracts must be limited to 2 pages printed on A4-size paper.

Refer to the Submission Guidelines for CAJ proceedings, and precisely follow the guidelines. Those who propose a panel or a theme session should submit a session overview of 2 pages maximum; abstracts of individual presenters are unnecessary.

Also, at your submission, please specifically type "CAJ submission: [name]" on the subject of your mail. Failure to specify the subject as such may result in identifying your e-mail as a spam so that the mail will automatically be disposed.

The first author of the paper as well as a presenter in the Convention is strictly limited to the CAJ members. If these responsible persons do not have the CAJ membership, please join the CAJ before submission and indicate your membership number on your paper: the number appears on the mailing label on the envelope of this letter. We also recommend that you clarify your current membership status because it

is often lost by not paying the annual fee.

Those of you interested in submitting a proposal, please refer to the CAJ homepage (<http://www.caj1971.com/>) for the submission requirements: "Submission Guidelines for CAJ Proceedings." We look forward to seeing you in Okinawa!

学会賞応募に関するお知らせ

当学会では、学会賞審査対象の著書を常時募集しております。今年度は、2013年1月1日から12月31日に出版された本学会員によるオリジナルの著作が対象となります。共著・分担執筆による著作については、すべての執筆者が本学会員である必要はありませんが、著作への本学会員の貢献が顕著と認められるものについて審査の対象とします。応募資格に関して不明な点がある場合は、事前に下記問い合わせ先にお問い合わせください。

締め切りは、2014年3月9日（必着）となります。応募される会員は、下記募集要領に従い応募してください。なお審査結果の報告は、年次大会の授賞式での発表に代えさせていただきます。

応募資格：正会員（自薦、他薦は問いません）。

応募方法：希望者は審査用著書3冊とともに、応募する部門（「研究書の部」もしくは「教科書・啓蒙書の部」のいずれか）を特定した上で、1000字程度の著作概略および著者の名前・連絡先を明記したものを添えて応募してください（尚、著書は返却いたしませんのでご了承ください）。

応募数量：一人一冊

問い合わせ先および審査書類一式提出先：学術局長守崎誠一

住所：564-8680大阪府吹田市山手町3-3-35関西大学外国語学部

電話&ファックス：06-6368-0484

E-mail：morisaki@kansai-u.ac.jp

学会誌に関するお知らせ

年次大会と並ぶ学会の「顔」である学会誌にとって、この「2013年度」はその歴史における大きな転換期になるかもしれません。何度かアナウンスしてきたように、長らく本学会をけん引してきた『ヒューマン・コミュニケーション研究』『スピーチ・コミュニケーション教育』が昨年度をもって一度時代の幕を引き、次号から『日本コミュニケーション研究』（英語名は *Japanese Journal of Communication Studies*）として統合され、引き継がれます。一連のジャーナル改革のなかで、投稿の利便性（メール投稿）、発行のスパン短縮（年二回発行）、再投稿に関する簡略化（再査読）など、学会員の皆さまがジャーナルをより身近に感じ、投稿しやすいシステムの構築を図ってきましたが、今回いよいよ「新装開店」の運びとなりました。

また、ジャーナル改革にともない、「研究論文集投稿規程」が変更され、公式ホームページに掲載されています。ぜひとも一度ご確認いただき、ご投稿の際には特に、一読されますようお願いいたします。

現在、記念すべき最初の『日本コミュニケーション研究』（第42巻新巻号）の編集作業を進めているところです。今後、幾度かの校正を経たのち、6月上旬には皆さまの手に届くよう進める予定です。

第43巻1号の募集は1月末日に締め切りしましたので（11月発行）、そのあとの2号の**締め切りは2014年7月末日**となります（2015年5月発行）（投稿自体は1年を通して受け付けています）。投稿の際には、**(1)「論文」、(2)「シノプシス」、(3)「A4判用紙」に書くべき情報に「ファイル作成に使用した機種」を加えたもの、以上3つのファイルを添付し、指定のメールアドレスに送信**していただくようお願いいたします。

送付先では以下の通りです。ジャーナル専用アドレスに加え、編集委員長のメールアドレスにも送ってください（「CC:」で結構です；「larsnunn」の最初の文字は小文字の「L」）。

To: journal@caj1971.com

CC: larsnunn@fue.ac.jp

ジャーナルへのご意見や投稿に関するご質問など、何かございましたらこちらにおよせください。

この数年でシステムは改善されましたが、みなさまの研究の結晶である論文こそがジャーナルの本質であり、「装い」を「新た」にしても「暖簾」が変わるわけではありません。日本コミュニケーション学会はこれまで同様、そしてこれまで以上に、この地に足場をおきつつ学問の普遍性を目指し、コミュニケーション研究を押し進める責任と使命を背負っています。この2013年度から心機一転、今一度日本のコミュニケーション研究の初心に戻り、新しく生まれ変わる学会誌『日本コミュニケーション研究』が学会のゆるぎない柱となるよう、みんなで育てていきましょう。

事務局報告

1. 会費納入のお願い

3月初旬に会費未納の方に振込用紙をお送りする予定です。今年度の会費の再請求は今回で最後となります。お早めにお支払いただきますようお願い申し上げます。会費2年分滞納でジャーナルの最新号を受け取ることができず、また3年分滞納で、除名処分の対象となりますのでご注意ください。

2. 住所等変更届のお願い

住所や所属が変わられた場合には、速やかに学会支援機構までご連絡いただくか、学会ホームページのWebシステム上で変更をお願い致します。変更の際には、会員番号とパスワードが必要になります。会員番号は学会支援機構からの郵便物の宛名の下に記載されている10桁の番号です。パスワードを忘れた場合、生年月日が登録されていればご自身での確認が可能です。パスワードをお忘れになり、かつ、生年月日を登録されていない場合は、生年月日の登録を直接学会支援機構までご依頼ください。なお、従来通りのメールや葉書等でのご連絡も受け付けますが、学会事務局ではなく、学会支援機構までお願い致します。

3. 学会発刊物の購入申込みと閲覧、複写申込みについて

ジャーナルバックナンバー、記念論文集、大会プロシーディングス等の学会発刊物をお求めになりたい場合は、学会支援機構にお問い合わせくださいますようお願い申し上げます。なお、ジャーナル、記念論文集については、国立情報学研究所の論文情報ナビゲータ CiNii (<http://ci.nii.ac.jp/>) に、著者により公開可とされた論文が掲載されており、閲覧・印刷することができますので、こちらも是非ご利用ください。同サービスを利用せず、複写をご希望の場合は、学会支援機構までお問い合わせください。

現在の CAJ 会員数

会員全体

一般会員 418名、学生会員 10名

各支部会員

北海道支部	正会員	26名	
東北支部	正会員	18名	学生会員 1名
関東支部	正会員	176名	学生会員 7名
中部支部	正会員	40名	
関西支部	正会員	80名	
中国・四国支部	正会員	21名	学生会員 1名
九州支部	正会員	51名	学生会員 1名
海外	正会員	6名	

広報局便り

1) 第44回年次大会の広報局活動の予定

第44回大会に向けて、広報局では以下の活動を予定しています。

- ① プログラム掲載広告の募集：2014年1月中旬に、例年通り、以前協力いただいた各社およびに新たな企業に協力依頼の案内を出す予定です。会員の皆様におかれましては、心当たりのある企業を広報局にご紹介いただきますようお願いいたします。
- ② 書籍・教育機材の展示の募集：これに関しても、例年通り、協力依頼の案内を開始する予定です。プログラム広告同様、以前協力いただいた各社およびに新たな企業に案内を出します。会員の皆様におかれましては、心当たりのある企業を広報局にご紹介いただきますようお願いいたします。
- ③ CAJの研究活動内容に関連する活動を行っている研究学会に、本大会の情報をお伝えします。会員の皆さまで、所属あるいは活動されている研究学会がありましたら、ぜひ広報局にご一報ください。広報局より、それらの研究学会にCAJ年次大会の案内をいたします。

2) 各支部の年次大会等の予定

昨年(秋冬)の各支部大会及び研究会の報告、および春期の支部大会/研究会の予定等が本号の「支部ニュース」に掲載されておりますのでご覧ください。次号では、春期の支部活動の報告を掲載する予定です。

3) 広報局からのお知らせ

- ① ニュースレター(Web版)の掲載について
いよいよニュースレターが完全にデジタル化されることになりました。紙媒体での発行は106号が最後になります。107号からはCAJのHPのみに掲載されることになります(紙媒体での郵送はなくなります)。ただし107号については、移行期ということもあり各支部のメーリングリストでも配信されます。
- ② ジャーナル投稿専用アドレスの設定と運用について
学術局と連携し、ジャーナル専用のメールアドレス(journal(@を入れる)caj1971.com)を設定し、次号投稿の受付を開始しました。
- ③ ホームページなどに関して、ご意見やご提言があれば、広報局までお気軽にご連絡をお願いいたします。



●北海道支部

支部長 町田佳世子

2013年11月9日(土) 13:00~17:30に第22回(2013年度)北海道支部研究大会が藤女子大学北16条キャンパスにて開催されました。今回のテーマは「コミュニケーションと教育を考える」とし、支部総会と講演、研究発表が行われました。会員9名、非会員3名、そして宮原哲会長、東北支部小林葉子先生、川内規会先生、五十嵐紀子先生にご参加いただき、全部で16名の研究大会になりました。

講演は、社会心理学がご専門で社会的スキルをご研究の石井佑可子先生(藤女子大学)をお招きし、「青年期の適応に及ぼす『対人的距離化スキル』の機能的意義」というタイトルでお話いただきました。石井先生は他者と近づきつながるスキルだけでなく、距離をおくスキルも社会的スキルとなりうる可能性を提唱し、青少年を対象にした調査を多く実施されています。本研究大会のテーマ「コミュニケーションと教育を考える」に大きな示唆を与えてくださるご講演でした。

研究発表は4件行われ、1つ目が佐々木智之先生(北海道工業大学)による「アクティブラーニングと能動的な学び」、2つ目が目時光紀先生(天使大学)の「習熟度別にみた大学1年生の英語力の変化」、続いて堀内満智子先生(札幌国際大学短期大学部)による「事例研究:観光英語検定試験対策ツールとしてのパワーポイント活用方法についての一考察」、最後は東北支部の五十嵐紀子先生(新潟医療福祉大学)と関久美子先生(新

潟青陵大学短期大学部)の共同研究「介護実習生が期待する実習：コミュニケーション vs 技術？」が発表されました。津軽海峡を越えて、東北支部からもご発表がありましたことは、支部間の連携という点でもとてもうれしく思います。

研究大会開会に際して、宮原哲先生にご挨拶をいただきました。その中で、各支部にはそれぞれ異なる特徴があるが、支部の充実こそがCAJ全体にとってとても重要であるとお話をいただき、これからも支部としての活動に皆で取り組んでいかなければとの思いを強くしました。またこれまでも東北支部と北海道支部は「肩に力のはいらぬ交流」を続けてきましたが、今回も五十嵐先生・関先生のご発表、そして小林先生、川内先生のご参加など、人や研究の面でできるときにできる交流を続けていく、という流れができてきたのではと思っています。

2013年度北海道支部研究会は下記の日程で開催いたします。2014年2月17日まで研究発表を募集しております。ご発表そしてお待ちしております。

2013年度北海道支部研究会

日時：2014年3月15日(土) 午後(時間は後日決定)

場所：藤女子大学北16条キャンパス



支部研究大会：石井佑可子先生ご講演



支部研究大会：宮原会長を囲んで

●東北支部

支部長 小林 葉子

活動報告：

1. ニュースレター第21号発行と支部HPへの掲載
2. CAJ東北支部研究大会(山形)2013年11月30日1時～5時半 元支部長の藏元礼子先生がお送り下さった薩摩銘菓に加え、東北・九州各地のお菓子が並ぶ中、石橋先生の「陸上部魂」(!)のおかげをもちまして、隅から隅まで気配りが行き届いた素晴らしい会を開催することが出来ました(以下、敬称略)。

[研究発表]

- 五十嵐 紀子(新潟医療福祉大学)・関 久美子(新潟青陵大学短期大学部)「介護を学ぶ学生の実習経験によるコミュニケーション観の変化」
- 川内 規会(青森県立保健大学)「研修経験のないボランティア通訳者の医療分野における通訳の壁」
- 小島 正美(東北工業大学)・宮曾根 美香(東北工業大学)「SNSにおけるコミュニケーションの課題ーネットいじめの対策についてー」
- 田島 弘司(上越教育大学)「非言語表現を活用した異文化コミュニケーション教育のための教材研究」
[学術局との合同セッション]
- 「コミュニケーション教育研究会ラウンドテーブル」：(大会での席順)石橋 嘉一(山形大学)・舟田 篤史(NPOハーバランス代表)・三浦 克之(山形大学人文学部2年)・吉武 正樹(福岡教育大学・CAJ学術局)・五十嵐 紀子(新潟青陵大学)

[その他] 宮原 哲(西南学院大学)「CAJ会長から頂くメッセージ」

[上記以外で他支部からのご参加頂きました先生方]：町田 佳世子(北海道支部支部長)、町 恵理子(関東支部)

[その他の出席者]：會澤 まりえ(尚絅学院大学)、青田 美香(東北支部HP担当)、市島 清貴(新

潟経営大学)、小林 葉子 (岩手大学)

[懇親会] : 山形割烹 飯豊 (いいで)

今後の活動予定 :

1. ニュースレター第22号発行
2. 定例研究会開催 (2014年3月仙台を予定)
3. HPの随時更新 : <http://www.caj1971.com/~tohoku/>

●中部支部

支部長 福本 明子

2013年10月以降の中部支部の活動を報告致します。

1) 2013年度 中部支部大会

2013年度の中部支部大会が、12月14日(土)に愛知淑徳大学の星が丘キャンパスにて開催されました。博士論文の発表が2つ(平田亜紀先生・中部大学、今井達也先生・南山大学)と基調講演1つ(椎野信雄先生・文教大学)の3つのセッションを実施しました。大会には、宮原会長、五島事務局長を含む14名(懇親会には13名)の参加がありました。初参加の会員の方も来られ、多様な内容の発表を学びつつ、楽しく開催することができました。



2) 今後の活動予定

- ・書評プロジェクト (ニュースレターへの掲載、年次大会での支部パネル)
- ・ニュースレターの発行 (3月)

支部の活動 (支部大会、書評プロジェクト、ニュースレター) については、随時、支部のホームページ (<http://www.caj1971.com/~chubu/>) に更新しておりますので、是非、ご覧ください。

●関西支部

支部長 森口 稔

関西支部秋季研究会報告

11月9日(土)に、大阪府立労働センター (エル大阪) にて、2013年度 CAJ 関西支部秋季研究会が開催されました。今回の大会参加者は15名、懇親会への参加も10名あり、大変活発で、充実した研究会となりました。

森口支部長の開会挨拶に引き続き、今回は、「出会い、つながり、場の創造」をテーマとして、京都大学 安寧の都市ユニットから安東直紀先生をお迎えして、ご講演頂きました。安東氏は、国土交通省のキャリア経験もお持ちで、専門家と一般の人々が考える「都市計画」と「まちづくり」のギャップに焦点を当てながら、土木工学における「インフラを整備するためのコミュニケーション」から「インフラ整備を通じて、どのように地域のコミュニケーションを増やすか」へのパラダイム転回の必要性について、様々な事例を示しながら、ユーモアも交え大変説得力のあるお話をしてくださいました。





講演の後は、関西支部初の試みとして、2時間にも及ぶ時間をたっぷり取った参加者全員でのディスカッションを設定し、今回のプログラムのアレンジ役を務めた小山先生の司会の元、安東先生を囲んで、活発な話し合いが行われました。人々の価値観の多様性、リーダーシップのあり方、クオリア、アナログとデジタル情報の関係性等、様々なキーワードを巡って、終了時には、まだ時間が足りないくらいの余韻が残るほど、知的刺激に溢れた有意義な交流が展開されました。

秋季研究会の最後は、場所を会場に隣接した和風居酒屋「多気」に移し、午後の議論の余韻を引き継ぐ大変楽しい懇親会となりました。

来年3月には定例の支部大会も予定しております。他支部の方々も春の観光を兼ねて是非ご参加ください。

●中国・四国支部

支部長 Rudolf Reinelt

12月7日・8日に広島大学歯学部にて第16回CAJ中国四国支部大会を開催しました。今年も医療コミュニケーション教育研究セミナーとの共同開催の形での実施でした。今回の支部大会では吉田登志子先生（岡山大学）と秦敬治先生（愛媛大学）による講演と、5名の方の研究発表があり、両日とも20名以上の参加者が集まりました。



小川哲次先生の研究発表

中国四国支部の特別講演として、秦敬治先生に「効果的な気づきを与えるコミュニケーション～大学現場での実践～」というテーマでポートフォリオなどについてお話いただきました。また、研究発表では①医療コミュニケーション教育の性質、②第二外国語教育、③コミュニケーション教育研究の方法論、④ナラティブにおける対人関係の複層性についての各発表があり、あらためてコミュニケーション研究の多様性を感じました。

2014年度の第17回CAJ中国四国支部大会は、12月に久々に場所を松山市に移して、支部大会単独での開催予定となっております。

●九州支部

支部長 伊佐 雅子

1) 2013年度 九州支部第20回記念大会の開催

九州支部は第20回記念大会を2013年9月28日(土)、長崎純心大学で開催しました。大会テーマは、「異文化交流とコミュニケーション」です。講演に先立ち、長崎純心大学の片岡千鶴子学長から挨拶を賜り、その後、同大学が立地する地域の通称「恵みの丘」の由来について簡単に紹介していただきました。

講演者に長崎純心大学人文学部教授兼大学院教授の片岡瑠美子氏をお迎えし、演題「日本のセミナリヨ・コレジョで実践された教育」のご講演後、研究発表がなされました。



講演では、日本人宣教師の養成のための、1) 日本に於けるセミナリヨ、コレジョの開設、2) 天正遣欧少年使節(1582年～1590年)の派遣、3) コレジョのテキスト『講義要綱』(コンペンディウム)について話されました。当時の教育は、ヨーロッパとは異なり、日本人を日本人として育てる教育がなされていました。セ



ミナリヨは完全な学寮制度であり、個人指導が充実し、ラテン語と日本語の読み書き、文章論、歌唱と洋楽器演奏、絵画制作、演劇、そして討論などの幅広い教育がなされていました。その後、この「セミナリヨ」「コレジョ」で学んでいた4人の天正遣欧少年使節は、1582年から1590年まで海外を旅し、ローマ教皇、スペイン・ポルトガル国王、貴族たちの前で堂々と挨拶を述べ、会食を楽しみ、ローマ学院の学生たちと交流することができました。

ご講演を聴き、国際交流とコミュニケーション能力を培う学校教育は既に16世紀に始まっていたことを知り、驚くとともに、当時のカリキュラムの素晴らしさに感動しました。

研究発表の件数は4件（2件は大学院生、2件は教員、1件はキャンセル）、大会参加者は20名（会員13名、大学院生は5名、非会員は2名）であった。支部大会後、バスでJR長崎駅に向かい、駅隣のアミュプラザ1階のPapas Caféで懇親会を開き、11名が出席しました。イタリア料理に舌鼓をうち、おいしいワインを飲み、楽しい時間を過ごすことができました。これも、大会実行委員長の畠山先生のご尽力により、会費以上のサービスをしていただきました。

第20周年特別企画として、橋本満広先生（前西南女学院大学教授、CAJの第8代会長：1993年～1995年）に感謝状と記念品を贈呈しました。ご本人が所用で欠席のため、代理として佐藤勇治先生（熊本学園大学）が受け取り、自宅まで届けていただいた。



大会内容

特別講演

「日本のセミナリヨ・コレジョで実践された教育」

講演者：片岡瑠美子（長崎純心大学）

支部総会

研究発表

「アメリカの高等教育におけるコミュニケーション教育の重要性

ーコミュニケーション教育が必要とされる理由の分析ー

青柳達也（福岡大学大学院）

「アメリカ系うちなんちゅの言語とアイデンティティ」

石川直美（琉球大学大学院）

「映画『リンカーン』に見る個人内コミュニケーション」

宮下和子（鹿屋体育大学名誉教授）

「メディアとしての「語り部」が伝える地域の記憶と現在」

池田理知子（国際基督教大学）

懇親会 Papas Café（JR長崎駅隣アミュプラザ1階）

2) 支部紀要の発行（11号）

九州支部紀要『九州コミュニケーション研究』（第11号）（2013年）デジタル版を11月に発行しました。研究論文3本と研究発表論文1本の計4本で支部のホームページに掲載済です。

3) 会員のためのニューズレター（Newsletter）（第24号）の発行（年に2回）

九州支部のニューズレター（第24号）を1月に発行予定です。内容は今年の第20回記念大会の報告、片岡瑠美子先生の講演要旨、会員5名の特別寄稿です。

4) 九州支部20周年の記念誌発行の準備

来年の九州支部第20周年記念誌発行に向けた編集委員会（7名）を立ち上げました。12月22日(日)、福岡で第1回編集会議を開き、記念誌の内容を検討する予定です。

産官学連携のコミュニケーション教育の課題

石橋 嘉一（山形大学）

昨年の9月だろうか。東京に向かう「つばさ号」の車内で、授業のコメントシートを読んでいた。「実社会について学べて本当によかった」「今回の体験をいかして将来の就職活動を頑張りたい」…

米沢を過ぎ、一面若苗色に輝く稲穂を見ながら、私の授業は本当にこれでよかったのだろうかと自問していた。今年度前期に「インターンシップに挑戦しよう」という新規授業を開発・開講した。授業の大半に産業界から外部講師を招聘するオムニバス形式だ。平成23年の大学設置基準改正で、学生の社会的・職業的自立が求められる。キャリアガイダンスに加えて、インターンシップは教育効果が高いとされ、各大学でプログラムの改善が続いている。改善とは具体的に何か。インターンシップ受入先・参加学生数の増加、実習の長期化・早期化、教育プログラムの充実化、評価の可視化である。平成25年度文部科学省大学教育改革補助金の一覧をみると、「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業（20億円：146大学）」「大学間連携共同教育推進事業（27億円：246校）」など、この他にも大学独自の予算や企業の支援金をもとに、産業界と大学間の連携を促進する取組が推進されている。これら多くの共通目的は、「実社会に通用する」若手人材を育成すること。各大学の申請書を概観すると、5つのキーワードがあがってくる。コミュニケーション能力、主体性、積極性、課題解決力、ストレスコントロール力、の育成である。

師走に本棚の整理をした。14年前に書かれた一冊の本と出合った。一度読んだことがあるが、あらためて読み直した。エメラルドグリーンを表紙の題名は、東海大学教育開発研究所編『コミュニケーション教育の現状と課題』。その中で、板場良久先生が執筆された「日本のコミュニケーション論再考—教育開発のプロローグとして—」がある。先生はこれまでの研究者のコミュニケーションの捉え方（観念）を丁寧に説明され、建設的な問題提起を行っている。特に印象に残ったのは、近代主義思想のコミュニケーション論を再考する際に、石井敏先生の引用を用いて「コミュニケーションを機械主体の関係と人間をも含む生物主体の関係に基づくとする2種類のシステム概念」で論点を整理し、ルソーの指摘を用いて人間機械論のコミュニケーション観を論じていた項目である。ヴィヴィアンヌ・フォレストル著『経済の恐怖』の一説が紹介されていた。「社会保険に加入し、機械に比べて不正確でじれったい被雇用者たち。忠実で丈夫な機械は、あらゆる社会的保護を必要とせず、本質的に操作しやすく、そのうえ経済的で、怪しい感情も攻撃的な不満も危険な欲望ももっていない。機械が新しい時代の幕を開けたのだ」。非正規雇用制度の拡大、転職が当たり前とされる時代の到来、それを受けてか、汎用的能力を習得することが人材育成の目的とされ、かつ教育評価の指標として急速に普及し始めている。「社会人基礎力（経済産業省）」「キー・コンピテンシー（OECD）」「ジェネリックスキル（ベネッセ、リアセック）」など、一部では時代の要請にあわせたかたちで数量的な測定ツールも提供されている。

今一度、反省の意をこめて、自分に問いた。私は盲目に時代に流され、産業界に都合のいい「機械」を製造していたのではないか。同時に自分もまた、時代に必要な機械を製造するための「機械」として機能していたのではないか。夏に新幹線の中で抱いた疑問の根底は、ここにあったのだろう。社会人の心構え、ビジネスマナー、産業界と連携した経営課題解決など、「トレンド」の学習項目をPBL（Project Based Learning）として整理し、授業を開発したが、産業界に傾斜していた。それゆえの授業コメントであったのだろう。学外に飛び出し、実社会という多様性のある集団での実践的活動。そこには慣れない環境下で、初対面の他者があふれている。多様性のある集団において、どう他者と新しい関係を構築するのか。チームで働き、協力するのか。争い・葛藤に対処し、解決するのか。どう他者といい関係を作るのか。コミュニケーション教育を考える我々が、大きなうねりで押し寄せる大学教育改革の中で、提言し、再考し、社会に向けて発信していく意義は大きいと思っている。

NLの電子版への完全移行のお知らせと メールアドレス登録のお願い

日本コミュニケーション学会 広報局

日本コミュニケーション学会ニュースレターは永きにわたり紙媒体でお届けして参りましたが、2014年10月号（第107号）より電子版に完全移行いたします。

電子版の形態につきましては現在理事会および広報局内で検討中であり、当面は現在と同様にHP上での掲載を予定しておりますが、将来的には学会全体のメーリングリストを構築しての配信も視野に入れております。つきましては、会員の皆様には、本学会HP（学会支援機構データベース）にて **メールアドレスの登録** をお願い申し上げます（下記の方法をご覧ください）。

今後、NLの配信を含めた学会の広報活動を効率化し、会員の皆様とより情報価の高いコミュニケーションを取れますよう、ご協力をお願いいたします。

メールアドレスの登録（変更）方法

- ① 本学会HP（<http://www.caj1971.com>）にアクセス
- ② 左側メニュー「会員各種手続き（Membership）」をクリック
- ③ ページ中頃の「各種変更手続き」の下、「1. オンラインでWeb登録情報確認・変更、会費残高照会ページ」をクリック
- ④ 会員番号とパスワードを利用してログインし、メールアドレスを登録（変更）して下さい。
 - * ご登録いただきましたメールアドレスは、学会（学生支援機構）が責任を持って管理し、**学会からのお知らせの配信（および、これに係るメーリングリストの構築）以外の目的では使用しません。**

会員番号とパスワードの取得方法

- 会員番号は、このニュースレターが郵送された際の宛名ラベルの中に印字されています（10桁の番号）。
- パスワードをお忘れの場合には、上記④の画面で、「パスワードの問い合わせ」をクリックして手続きを行って下さい。

学会支援機構の連絡先

〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13 小石川アーバン4F

一般社団法人 学会支援機構 日本コミュニケーション学会担当

Tel: 03-5981-6011 Fax: 03-5981-6012 E-mail: office@asas.or.jp

編集後記

間もなく2011年3月の震災から3年を迎えます。あまちゃんブームも去り、原発や放射能の問題も政局ニュースとして扱われていることの方が多くなった今、震災とコミュニケーションの関係についてあらためて思いを馳せなければいけない時期が来ていると感じます。今年のCAJ全国大会は、沖縄で、平和とコミュニケーションをテーマに開催されます。様々なものが変化し複雑化する現代社会で、私たちはともすれば目先のコミュニケーションの方略や機能に目を奪われがちですが、コミュニケーションが人間の存在や価値、そして生き方そのものに与える影響の大きさについて、深く考えられる一年にしたいと思えます。

広報局ニュースレター担当 小山 哲春